

様式1 平成31年(令和元年)度 山梨県立笛吹高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標、経営方針	◎自己の可能性を信じ、何事にも主体的にチャレンジする生徒の育成 ◎広い視野をもち、地域社会の形成にすんで参画できる生徒の育成	山梨県立笛吹高等学校校長 井上 孝俊								
本年度の重点目標	1. 魅力ある授業の工夫をとおして、学習意欲の向上と確かな学力の定着をはかる。 2. 日々の教育活動をおして、良好な人間関係と規範意識の醸成をはかる。 3. キャリア教育を推進し、各々の適性に応じた進路の実現をはかる。 4. 笛吹市との包括連携等を活かして、地域課題に取り組み意識と行動力を育てる。	<table border="1"> <tr> <td>達成度</td> <td>A ほぼ達成できた。(8割以上)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B 概ね達成できた。(6割以上)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C 不十分である。(4割以上)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>D 達成できなかった。(4割以下)</td> </tr> </table>	達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)		B 概ね達成できた。(6割以上)		C 不十分である。(4割以上)		D 達成できなかった。(4割以下)
達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)									
	B 概ね達成できた。(6割以上)									
	C 不十分である。(4割以上)									
	D 達成できなかった。(4割以下)									
評価	4 良くできている。 3 できている。 2 あまりできていない。 1 できていない。									

自己評価			年度末評価(令和2年2月6日現在)			学校関係者評価	
番号	評価項目	本年度の重点目標 具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果 達成度	成果と次年度への課題・改善策	評価	実施日(令和2年2月17日) 意見・要望等
1	学習意欲の向上と確かな学力の定着をはかり、魅力ある授業づくりに向けた授業改善の工夫	単元などをまとまりとした評価シートを作成し、授業を通して身につけた力を生徒に評価させ、学習方法の改善や学習意欲の向上を図る。また、それを授業改善や個に応じた指導に役立てる。 「ゆまなしスタンプカード」の視点の実践に向け、相互授業参観等を通じ、教科を超えて学び合い、魅力ある授業づくりにチームとして取り組む。	【授業アンケート】 【評価シートの活用状況】 【授業アンケート】 【相互授業参観の状況】 【今未来手帳活用状況】 【二者相談の機会の確保】	B	・教育課程研究会への参加者による伝達講習会を実施し、新しい学力観や教育施策の共有を図った。 ・「今未来手帳」について生徒指導関係説明会、アルバイト実地研修等において積極的な活用、手帳についてのスケジュール管理やアルバイト時間管理などに有効利用できた。 ・また、学年での情報共有ができた。 ・年間2回実施する教員による相互授業参観は、第1回目86.6%、第2回目56.7%となった。 ・今年度の授業アンケートでは、いずれの項目も昨年度の数値を上回っており、生徒が評価する授業の実施状況は良好だった。授業の中で「話し合いや発表する機会」、「単元の振り返りについて着手であるが不足を示す機会(12〜14%)となった。	3	・年度末評価の集計結果から、項目2、3において、教員と生徒の間に認識の乖離があったことは残念。「伝えた」ことが「伝わる」ことになる努力が必要かもしれないと思う。 ・生徒の授業アンケート結果から、各々の教育に「フィードバック」その後の改善また感想をまとめる必要があると思われる。 ・教科担当者での積極的な情報交換がさらに行われることが望ましい。 ・多くの生徒が「自分で学ぶ」姿勢の醸成が行われている。 ・新学期指導要領の施行に向けて、授業づくりには様々な努力をされていると思われる。学習の目標を明確にした上、主体的で対話的な活動が、授業に取り組みされていること、アンケートの結果から、生徒が実感していることがわかる。教科担当同士も、授業内容や指導方法などの話し合いが、昨年比に比べて意識的に行われているようである。忙しい中大変だと思うが、これからも授業改善に取り組み、より成果が上がることを期待したい。 ・学力の定着はその多くを本人の自覚と努力に負う所がある。その意味で自分自身が自分を出さなくては、将来に向けて今何をすべきかを真剣に考える必要がある。見守り授業では、概ねなされた。
2	良好な人間関係と規範意識の醸成を目指した。日常的な教育活動の工夫	挨拶指導の徹底や言葉遣い・聞き方の指導を通じて、社会の中で良好な人間関係を作り上げるための基本的なマナーを身につけてさせる。 学校行事・部活動・地域交流など、多くの人と関わり合い良好な人間関係を形成する場面を設ける。 教職員間の共通理解及び保護者との連携を図り、良好な人間関係と規範意識を醸成する。	【挨拶指導の実施】 <small>(学年・学科・委員会など様々な場面での指導)</small> 【部活動の活性化】 【学校生活の充実】 【地域交流の活動状況】 【教職員間の情報共有】 【保護者への情報発信】	B	・各校指導(年3回)について、PTAの協力を得ながら積極的な生徒への声掛けの実践や情報提供の手立としてその効果は得られた。TPOに応じた態度・言葉遣いは、叱るのではなく考えさせる指導を徹底した。 ・笛吹市との包括連携事業の一環として、市のオンライン・オフラインの両方に向けて、また、少子化を逆風の中で、特に、運動部活動の活性化に資するものとした。 ・部活動ガイドランを昨年より意識をもって取り組むよう努力したが、対応としてはまだ不十分もある。 ・情報共有について、毎週金曜日設定されている場では徹底できていないが、日頃の休憩におけるリアルタイムの共有については、もう少し積極さが必要であった。 ・多様化する生徒の現状を常に教職員間で情報共有し、連携、協力して指導した。また、規範意識の向上を目指した働きかけを行った。	3	・同じ高校内に多様な背景、能力を持つ生徒がいる現状にどうと、お互いの違いを認め、受容しあう関係づくりを支えることは重要。 ・国籍、現住地、居住地域の違いによる生活文化環境の差、さらにLGBTなど、社会的な差異も当然存在することを理解して、生徒間の人間関係づくりを行うと意識した。また、生徒自身がカウンセリングを希望する風土づくりが必要と思われる。 ・時代的な規範は変容していく。役割も急速に変化している。女子制服にハンズスタイル導入するなど、検討をしてみようかと思った。 ・部活動は、生徒指導上意義があるものであり、生徒も頑張りたいという気持ちがあると思う。そのような状況で、ガイドラインに沿った活動は、難しいものがあると思う。いじめについての対応は、今年度は重大なものがあったと聞いた。アンケートからも教師・生徒の両者の評価が、昨年度より増えていることから、取り組みの成果が表れているものも考える。様々な教育活動を通じ、工夫がなされていると感じた。
3	各々の適性に応じた進路を実現するためのキャリア教育の実践	「総合的な探究(学習)の時間」「LHR」「産業社会と人間」等を活用し、外部機関等と連携しながら効果的なキャリア教育を行う。 インターンシップやオープンキャンパス等を有効に活用し、社会の一員としての職業観を養い、将来の職業選択の基盤を築く。 土曜講座、長期休業課外、小論文講座、各種検定など生徒のニーズに応じた学習機会を設け、積極的な参加を促す。 生徒や保護者への情報提供を充実させ、進路意識や目的意識を高める。	【計画的な進路ガイダンスの実施】 【地域社会への関心度】 【事前・事後指導の充実】 【多様な学習機会の提供】 【各種便り、HP等の充実】	B	・キャリア教育推進研究指定校2年目として、山梨学院短期大学、健康科学大学、県立農産大学校連携や、総合学科でのJICA本邦見学、建設現場見学会、保育実習など、外部との連携によるキャリア教育を積極的に実施できた。 ・「総経」においては博物館学習などを取り入れ、郷土の歴史や文化について学ぶ機会を取り入れている。学年進行に応じて外部機関の協力を得ながら地域課題について考える機会を設けることにより、 ・インターンシップは、1学年全生徒を対象とする3年目の実施となるが、事業所の開拓等よりきめ細やかな対応をしていく。 ・進学会は、ここ数年の間に入試改革等が行われてきたため、全てのことを網羅するための対策を講じていく。 ・土曜講座の回数は、概ね適切に実施され、進路希望分野において、進路冊子等で情報提供に努めた。 ・部活動顧問や分掌主任が直接HPを活用したタイムリーな情報発信ができるよう、年度当初に講習会を開くことにプロダ更新を呼びかけ、学校の最新情報を分野別に迅速に発信することに努めた。 ・笛吹高校連携を2回発行、市内中学生や市外の中学3年生へ配付し、学校生活の様子を詳しく発信した。	4	・1年生でインターンシップを経験できることは、大きな意義があると考え、インターンシップ終了後には、一定のルールを設けたうえで、アルバイトを解禁してほしいと思った。 ・農場連携の先立からの張明で、産学連携も果樹園産科におけるご苦労はよく分かった。高校の実践をアピールするための努力は、企業のビジネス戦略の要諦も理解している。そのような取り組みは大変だと思うが、生徒の意欲が高まるのではないだろうか。より良いプランや作物づくりにより、笛吹高校が、いつか産出果物のブランドになってほしいと思う。 ・実社会で働いてみる教育を工夫した方が、私の会社では、父親の横に子供(中学生)が座り、一日の仕事見学した事があった。高校生の場合でも、もっとキャリア教育の経験ができると思う。レポート提出もあり、これは親の審査が必要であった。
4	具体的な学習の場において、学んだことを積極的に生かし、他者と連携・協同しながら課題解決する力を育む	地域の外部行事を積極的に伝達するとともに、その行事等を企画の段階から自主的に取り組み、社会参画の場を工夫し、成就感や自信が持てる実践的な取り組みを行う。 ウエルカム笛吹・フェスタ笛吹の行事を通じ、地域社会の一員としての所属感や連帯感をさらに強く持てるよう育成する。	【生徒会活動の充実】 【広報活動の充実】 【笛吹市との包括連携による活動】 【フェスタ笛吹への主体的な取り組み】 【外部への積極的なPR】	A	・魅力ある学校づくりブランドデザインを作成し、各教科、分掌に具体的な行動目標を立てた。年度末に振り返りと次年度への申し送りを行う。 ・生徒会活動を中心として、部活動の活性化のため、各都での活動を積極的にに行い、自覚と肯定感の向上を図った。 ・笛吹市との包括連携協定や甲府一高とのコンソーシアムの構築などによって、協働的かつ体験的な生きた学習の場を創生することができた。 ・笛吹市の広報誌に本校情報を6回掲載し、多様性をアピールすることができた。 ・フェスタ笛吹では、地域へ定着した行事となっており、地域や保護者から期待され実施できた。生徒実行委員会を中心に自主的に活動できたが、一部に祭り感覚であった生徒もいた。 ・食育推進全国大会の出店、八王子駅やまほろの店、台湾での販売PRなど学校生産物の外部出店及び産学官連携を実施できた。また、地域観光調査を実施した。 ・ウエルカム笛吹や石和温泉駅周辺花活動を通して、地域貢献への意識を醸成することができた。	3	・「ブランドデザイン制作の主旨の理解と具体的な取り組みの推進を図る。その際、笛吹市との包括連携事業を踏まえた取り組みを検討し、魅力を発信していく」ができていない。 ・生徒会活動による地域の行事に関わる機会を設ける中で、その生徒も参加できるようにする。 ・地域におけるボランティア活動に対する生徒の全校的かつ積極的な取り組みの充実が必須。 ・生徒のシネズン感覚、社会参画意識を高めるため外部との連携活動が一部の学科・教科にとどまらずに全体に波及するような手立てや方法を工夫する。 ・広報では、校内の関係部署と連携を取り、どのような情報を取り上げるか早めに検討する。 ・フェスタ笛吹は、目的意識をもって「おもてなし」などを意識し、地域との連携や連帯感を持って取り組む。また、生徒の地域貢献意識の醸成を図る。 ・外部の不特定多数への販売対応に注意を図る。 ・地域活動を生徒が主体的に計画、実施できるようにする。

留意点 (1) 重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。  
(2) 学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価委員等は、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。